

第2回京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和3年11月22日（月）午後1時30分～午後4時00分
- 2 開催場所 アミティ丹後 2階 研修室A・B
- 3 出席者氏名
 - 京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議委員
柴田隆行委員、足達純一委員、沖佐々木義久委員、松本昌子委員、
濱岡文子委員、森政博委員、田中匡代委員、志水美咲委員、
梅田豊子委員、中川正樹委員、杉岡秀紀委員
 - 事務局
川口市長公室長、松本政策企画課長
平市民局長、梅田主事、小牧支援員
中川都市計画・建築住宅課長、安達主査
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 委員長挨拶
 - (3) 議題
 - ①第1回京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議での主な委員意見概要
 - ②網野庁舎跡地活用構想（提言）のコンセプト、基本方針など、提言の核となる部分について意見交換
 - 1 現状認識（市の課題、網野の強み）について
 - 2 周辺エリアとの関係性（一体性、地域性、機能性、環境性）について
 - 3 コンセプト、基本方針について
 - ③跡地活用施設の整備内容について意見交換
 - 1 交流広場について
 - 2 交流センターについて
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴人の人数 1人
- 7 要旨

《議事経緯》

事務局：定刻となりました。皆様、こんにちは。ただ今から第2回京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、またこのお足元の悪い中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の検討会議につきましては、3名の委員の方から欠席のご報告を受けております。小林委員、齋藤委員、山崎委員がご欠席という

こととございます。本会議ですけれども、「京丹後市庁舎整備検討委員会設置要綱第6条第2項」の規定によりまして、委員の3分の2の出席がありますので、本日の会議が成立していることをご報告させていただきます。それでは開会にあたりまして、杉岡委員長からご挨拶いただきます。よろしくお願ひします。

委員長

： みなさん、こんにちは。今日は足元の大変悪い中、お集まりいただきましたこと、まずもって感謝申し上げたいというふうに思います。私、今日の午前中は、昨日娘のバザーがあった関係で、幼稚園が振替休日ということで、朝から娘に振り回されておりました、それはいいんですけれども、晴れていれば、三段池公園とか行くところがたくさんあるんですけれども、雨が降りますと福知山は科学館という建物一個しか行くところがなくてですね。ほぼ幼稚園のメンバーがいっぱい来ておまして、今日はここが幼稚園になっているなど、そんな感じで朝過ごしまして、今日こちらにやってきました。

さて、そんなお話もさることながら、前回10月11日に一回目の会議をさせていただきますして、皆様の活発な意見、その結果をまずもって、ご報告いただきながら今日は、どちらかといえば網野町のほうで、皆様のほうで作っていただいたものどんどんブラッシュアップしていけるような場にしていければなと思っております。

私自身もですね、前回の委員会のあと松本課長に、私の大学に来ていただきまして、この網野含め京丹後市の魅力を大学生に伝えていただくこともお願い申し上げまして実現いたしました。そして10月末には、5市2町で高校生未来会議というものを作っておりまして、こちらからも丹後緑風高校の生徒の皆さんが参加してくれまして、非常に活発な意見を提案してくれています。これはあと2回くらい続きますので、継続案件になります。そして先週はですね、私の一年生の学生を連れて、rootsに行ってきました。前回rootsのお話、本日の議事録でも出てまいりますけれども、本日の会議に臨む前に、どんな場所か行っておかないと、説得力がありませんので。コーディネーターの稲本さん、私の大学の後輩なんですけれども、彼女からもたくさんお話を聞かせていただきまして、大変勉強になりました。したがってrootsのような魂といいますか、理念をしつかりと京丹後がこの5市2町で先陣を切ってはじめられた、寛容性という言葉をあえて使いたいと思いますが、新しいことを始めるということは、やはり寛大な心がないと地元の方にも受け入れられせんし、役所のほうも新しいことやろうと思ったら、仕事が増えると思われるので、役所中でも理解が得られず、形だけ作って魂が入らないといったことが起きますので、ぜひともそういったものにならないように、こちらの委員会は地元の提案をもとにみんなで作って

く。そして寛容性のある京丹後ならではの展開をぜひともしていき
たい。そのためにも皆様の活発な議論をご協力お願いしたいと思
います。今日も私は進行に努めてまいりたいと思いますので、どうぞ
よろしくお願いいたします。以上でございます。

事務局：ありがとうございます。次にお配りしております資料の確認を
させていただきます。あらかじめ送付をさせていただいております、持
ってきていただいていると思いますが、その確認となります。

(資料の確認)

それでは「京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議設置要綱第6条
第1項」の規定により、委員長が会議の議長となりますので、ここ
から以降の議事進行につきましては、委員長にお世話になりたいと思
います。よろしくお願いいたします。

委員長： それでは私の方で、進行をさせていただきます。今日は皆さまに
は、先ほどお伝えしました通り三つの議題がございますが、主には
後半二つございまして、一つは前回の皆様の発言を事務局のほうで
まとめていただいておりますので、その確認をさせていただきたい
と思います。そして残り二つが、今日のメインでございまして一つ
が基本構想を少し、全体の理念ですとかビジョンをご議論をいただ
く。そしてそのあと具体的な交流施設や交流スペースの機能につい
て、叩き案をもとにさらにブラッシュアップの議論をお願いしたい
です。こちらのほうで今日はグループワークに分かれて並行して、
少し議論していただきましたことを最後に共有する。このような段
取りで進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それではまず一つ目、前回の第1回の検討会議をフリーディスカ
ッションといたしましたので、その内容をまとめていただいております
ので、事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

事務局： (資料1に基づき説明)

委員長： どうもありがとうございました。いま局長のほうからご紹介いた
だきましたものは、皆様からのご意見をまとめると概ねこのような
感じなのではなかろうかということでございます。私も今前回のメ
モを見ながら、チェックしましたが、概ね皆様のキーワードは、拾
っていただけているのかなと思います。ただ記録が薄れているとこ
ろもございますので、皆様の方で、自分の意見が入っていないなど
ございましたら、追加いただきながら今後の基本構想に活かしてい
きたいと思えますし、あと資料1左側の項目のまとめ方ですね、交流、
賑わい、観光という三つの切り口でいただいておりますけれども、

これでよろしいかどうか、少しご質問とかご意見あればいただければと思います。どうでしょうか。

私、一点だけ意見があるんです。最後その他に括ってらっしゃいますよね。これは確かにその他でも括れるんですが、この項目の三つは、チャレンジという切り口で括れるのではないかと思います。若者のアイデアを高齢者がサポートするとか、子どもがやりたいことを大人が応援するというコンセプトが前回会議で結構盛り上がった記憶がございます。そういう意味で言えば、その他で括るというよりも、むしろこの網野庁舎の跡地につきましては、みなさんがチャレンジできる場所、若者が、あるいは働くママがチャレンジできる場所、経営者がチャレンジできる場所、そういったチャレンジみたいなキーワードがもうちょっと出てきてもいいのではないかなと思いましたが、この資料を修正するというだけでなく、むしろこの後の基本構想にそういった趣旨が入ればいいんですけども。その他で括ってしまうともったいないという気もしましたし、そういうことでいいますれば、前回、副会長の方からございました、古墳というカテゴリーがあった方が地域特性があるかもしれない、ということもありましたけれども、そこは土地柄でございますので、キーワードということでいいますと、チャレンジという言葉も加えてもいいんじゃないかなと思います。そういったようにも括れますといった意見です。その他いかがでしょうか。よろしいですか。ではこちらの意見を見ながら次の議事に入りたいと思います。それでは二つ目の基本構想につきまして、皆様のご意見を伺いたいと思います。この後、各論に入っていきますので、その前の総論であるご理解いただければと思います。基本的にはあみラボさんの方でご議論いただいて先ほどの提言書がベースになってございますので、この議論と全体で委員の皆様で議論したことを、あわせもって基本構想といいますか、コンセプトにしておくということになるだろうと思いますので、資料1をご覧いただきながら基本構想のキーワードだったり文章についてどうか、そういった点でお聞きいただければと思います。ではまずもってこちらにつきましても事務局の方からご紹介いただければと思います。よろしくお願ひします。

事務局：（資料2に基づき説明）

委員長：ありがとうございました。というわけで本来であればこういった叩き案は、行政の方で作りを委員の皆様の方で議論いただくというのが通例でございますけれども、こちらにつきましては、すでにあみラボの方で、市民が中心となり議論が行われ、まとめていただいたというものでございますので、本当に計4回、延べ100名の方がご参加いただいた地域の視点が入った生きた素案になっているなど

というのが、私の印象でございます。この委員会はいみラボに参加されなかった方もいらっしゃいますので、より多くの方の意見さらに乗っけていくような、コンセプトやキーワードがあれば、いみラボの実績にさらにプラスアルファで乗せていくような議論をするのがこの委員会のミッションでございますので、ここは各委員の皆様にご意見を賜って、特に追加意見はないということであれば、なしと書いていただいて、何か一言でも二言でもあれば、出していただく。このいみラボさんの議論の時とは違って出てきているのは、前回、委員の方からあった売り物件の場所も、すでに民間の方に渡ってしまっているとう追加情報もありましたので、そのあたりも含めていうと、少し状況の変わっている部分もあると思いますので、追加の意見がなければなし、あれば少しコメントいただければなというところで一周させていただければなと思います。

委員 : 私はいみラボに参加しております、そこで十分意見を伝えたかなと思います。そこで上げたことが私たちの思いです。

委員長 : では次の方をお願いします。

委員 : 私はいみラボメンバーとして、改めて見るとしっかりと作り込まれている資料なのかなと思います。さきほど委員長の方から前回意見のまとめとして、チャレンジといったまとめ方もあるのでは、と書いていただいたとおり、チャレンジといったところも非常に気になる場所でもあります。どうしても商工会から来ているものから、もっと仕事生まれる、繋がる場所といいますか、起点という位置づけという意味でも本当にいい場所だかなと思いますけど、私は、この後のグループワークでも交流施設の方のグループに配属されるので、その時にもお話させてもらったほうがいいのかなと思っただけですけれども、仕事の在り方というか、コロナの影響もあって働き方も変わってきていますし、また若い方ですと柔軟に起業していくというところも、昔のように会社も作りにくい時代ではないので、そういった仕事についても役立てられるような場所になればなというところを押ししたいかなと思っています。

委員長 : どうもありがとうございます。おっしゃる通りでコロナによって失ったものはありましたけれども、逆にいうと得たものというか、進んだ部分ですね。これまでオンラインで働くだとか、都会の方々が二拠点で働くだとか、こういった一部の方しかやっていなかったことが相当進んでいます。最近では宮津市でテレワークのお仕事の手伝いをたくさんしているんですけども、宮津市も例えば前尾記念館をテレワークの拠点にするだとか、あるいはそういったことをやろうとする方々へ補助金を出すとか、相当な拠点づくりをやっていると思いますので、ここではコンセプトの中の地域の賑やかな

空間というところに入っていると思いますけれども、その中で今おっしゃったような、例えばここで新しい雇用が生まれたり、新しい働き方ができるような空間というのは、コロナ前ではあまり議論されなかったことで、プラスアルファで乗っけてもいいというご意見だったのではないかなと思います。このあたり後半のほうで具体的なキーワード等を、出していただければありがたいなと思いました。ありがとうございます。

委員 : 私は、文化団体ということで参加をさせていただいているのですが、少し話を戻すような形になるんですけども、前回、文化団体ということでの意見を申し上げたんですけども、網野町に住んでおまして、なにか発表するという場合は、今はアミティだけなんです。そうするとやはり、だいぶ古くなっているところとか、使い勝手が悪いというようなところがあるので、あれだけの広大な空き地を見ているときに、もし小規模な形でも網野支部での発表の場が出来たらうれしいなという想いがあって参加しました。ただ、参加させていただいて提言を見させていただいて、本当に素晴らしいと思いましたし、色々なことを考えられたものだったのでとても感激しました。そういったことでの意見を前回は言わせていただきました。それに加えて、今回の跡地利用に関しては、そういった発表のできる場はないんだろうと思いました。ただ、たくさんの団体が発表する場じゃなくても、フリースペースというところを取っていただいているので、そういうところで、いろいろなミニコンサートや数団体でコラボみたいなことをするような柔軟な使用ができるようなスペースという形を考えていただけるとうれしいなと思います。それから委員長からお話があったrootsのことですけれども、私も以前、旧丹波小でされたイベントにも行かせていただきましたし、昨日もrootsの川瀬さんとお話をする機会もあったのですが、あみラボの中にも高校生がたくさん参加されていたということですので、この施設が出来ておしまいではなくて、どう活用していくか、どのように発展させていくかということになったときに、やはりこの構想を作るまでに参加した高校生が、その後ももっと想いが広がって話し合えるような場が、今のrootsのような形だと思うので、この施設でもいつも誰かが居て、常設でそのような場所があれば活用の面でいいのではないかなと思います。rootsはかなり遅くまで必ずどなたかがいらっしゃるんですよ。それはやっぱり部活が終わった後でも行けるとか、塾だったり忙しい中で、夜でも明るいところがあれば。という想いがあるとお話をお聞きしました。構想の中にも夜の町を明るくするためにもとというようなこともありましたので、そういうようなところにも繋がると思うと感じました。

委員長 : ありがとうございます。とても重要な視点を二ついただいたと思います。後ほど出てきますが、コフーン（仮称）の中にも文化交流というキーワードも入っていますし、今あったようにフリースペースが二階のほうにふんだんに設けられていますので、いろんなアレンジができるかなと思います。ただよくありがちなのが多目的ホールであって、なんでもできますよといわれているところが、使いにくかったりすることがありますので、少し使っているイメージできるような、例えば展示といったお話もありましたし。例えば、壁に何かかけられるようになっていたとか、少し階段状のステージがあるとか、いろんな要望を具体的に出した方がいいだろうと思います。なるべくいろんな方が使えるように単体だけのための会場というよりも、いろんな方がアレンジ出来るような場所が一階なのか二階なのかも含めて、ご議論をぜひともやったほうがいいと思います。それから二番目におっしゃったrootsのお話がありましたけれども、網野町には緑風高校網野学舎がありますので、そこの学生たちが使いたいと思えるような場所。それがこの施設の中でどこなのかということになりますと、たくさんのスペースがあるので、いろいろとできるだろうと思いますけれども、あえて高校生だけが独占できる場というのが、小さいスペースでもあったほうがいいかもしれませんし、逆に多世代交流ということを上げれば、あえて囲い込まないほうが交流が生まれるかもしれませんし、そのあたりのコンセプト等を議論いただきたいなと思います。そういう意味では前のめりな発言になりますけれども、グループワークの方で交流広場の担当になっているんですけれども、交流センターのほうで議論したくないですか。区長連絡協議会さんのほうから足達さんと沖佐々木さんが入っておられるので、沖佐々木さんはすべてを熟知されていらっしゃると思うので、あえて交流広場のグループから変わっていただいて、田中さんのほうに交流センターグループの議論に加わっていただくということでも構わないでしょうか。ではグループを変わっていただいて、田中さんに交流センターの方に加わっていただきたいなと思います。それでは次の方よろしくお願いたします。

委員 : 先ほど委員さんが言われていたように、本当にコロナ禍でいろんな状況が変わってきて、私は今年初めてPTAの役員をさせていただいているんですけれども、子育て講演会等の集まりがすべて、オンラインでの実施だったんです。なかなか本部役員でも家で参加できる人、できない人が分かれてしまって、負担が偏ってしまったので、そういう小さなグループだけでもオンラインで講演会や動画が見れるスペースがもしあったら、少し変わってくるのかなと思いました。あと私は個人自営業なので、家で24時間ずっと仕事ができる

んですけれども、やっぱり気分転換に外で少し仕事をするときもあるんです。そういう仕事を一人で集中してできる、個室ではなくても周りが気にならない程度で仕事ができるスペースがあると、私はとてもうれしいなと個人的に思っています。以上です。

委員長 : ありがとうございます。本当に大事な視点で、今は二つの仕事を平行してされる方もすごく増えておられますし、それこそち亀という漫画がありまして、その作者の方はどこでお仕事をされていたかと言うと、ずっと喫茶店でされていたんですね。自宅ではいっさい漫画を描かずに全部喫茶店で描いておられていて、やっぱり家の中でできないことって、どうしてもアイデアの着想とかもありますし、メインとサブということかもしれません、後ほどグループワークの資料にも出てきますけれども、公募スペースのところでカフェといった言葉も入っていますので、カフェがあるだけでもいいかもしれませんし、お金をかけずにWi-Fiだけ飛んでいて、できるだけ区切られた空間があるだけで私も仕事がしたいなと思いますので、部外者も受け入れてもらえるようなゾーンがあると非常にうれしいなと思います。ぜひともそういったご議論をお願いしたいです。資料3の中の子育て応援スペースといっても、子どもたちが遊べるだけではなくて、子育てをするお母さんも、毎日でなくてもどきどき使いたい方も使えるようなスペースというようなご意見だったのではないのかなと思います。

委員 : 先ほどもお話が出たので、青年会議所としての立場からお話をすると、ビジネスとしてのところは、ぜひ入っていただきたいなと思いますし、どちらかというに移住者であるとか若者のチャレンジというところで、施設の中に建屋として、ものがあるわけでもなくてもいいと思うんです。ちょうどパース図のところでも入っていますけれども、外でコンテナハウスみたいな形で常設して、コンテナハウスの中で、例えば月額利用で何かに使えたりだとか、最近でいうとキッチンカーという形で、所有されていらっしゃる飲食店さんも非常に多くなってきていますので、そういう方々がチャレンジが出来るというか、この場に集まることの出来るような、そういう場所になればいいのかなと非常に感じていました。高校生さんに関して、やはり考えたことが具現化できるような建屋にしておかないといけないと思うので、議論だけして実現できなくて、To Doが回らないみたいところが結構あるので、実際に彼らがそこで店を設けて自分たちの作ったものを売れるような機会づくりのようなところも今回あったらいいのかなと感じています。あとは使用者のターゲットの部分で、最終的にこの施設がどれだけの稼働をするかを議論されなければいけなくなると思うんですよね。これが毎週土日だけし

か稼働していなくて、平日はほぼ動いていないとなるとあまり意味がなくなってしまうので、やはり稼働率が半分以上は稼働しておかなければならないかなと思うので、そういったところにおける利用ターゲットというのが、地域住民だけなのか、移住者であるとか外部の方々が網野に来た人が自由に使えるとか、または工芸繊維大学さんのキャンパスがありますけれども、あそこのように各大学さんが自由に使えるようなものにするとか、そういう場として地域外の学生さんもお利用いただけた方がいいのかなと感じております。あとは、この議論ではないんですけども、市役所さんに伺いたいことがありまして、今回のあみラボで出てきたコフーンという立地としての古墳の形であるというところに対して、いままでから京丹後市さんの観光関係はすごく悩ましいなと思っていて、すべてを使われるので訳が分からなくなるんですよ。網野町における銚子山古墳という歴史的に深い文化を、僕がいままで観光の事業をやってきて、古墳に触れたことは一切ないし、古墳に触れろとも言われたこともないです。大阪とかですと、古墳だけで一つの町おこしをされている観光コンテンツがあるんですけども、京丹後市はあまりないんですよ。いままでいろいろあって、たぶん丹後七姫もそうだと思うっていて、我々丹後大国として七姫のデザインセンスを再度変えましたけれども、それまでは七姫は全然出てきてなくて。最近はまだ出てきていますけれども。今回は全体的にテーマを古墳で行かれるのであれば、古墳の町としてもう少しコンテンツに入れていただかないと、この施設だけが古墳の形をしていますとなると、他との統一性がとれなくなってくる不安があるので、そこは市全体のデザイン構想として考えていただいた方がいいのではないかなと感じています。

委員長

： ありがとうございます。大きく三つご指摘をいただきました。一つはコンテナキッチンとかキッチンカーのような部分をうまく利用することで、用途を緩やかにできるのかなと思います。舞鶴市でも赤レンガパークの向かいのちょっとしたスペースにキッチンカーをおいてイベントをやっていたりだとか、あるいはチャレンジショップのようなものやっていたりしゃるケースもありました。そのように一つの箱をみんなで使ったり、あるいは常設でなく土曜日と日曜日だけ来るキッチンカーがあったり。建物の中で営業するとなると、やはりコストも上がりますし、許可基準も上がってきますので、そういったことを含めて言いますと外で常にチャレンジできる場所があるということはすごくいいことだと思いました。それから稼働率の話とターゲットのお話ですが、おそらくもう少し議論したほうがいいのかと私も思いました。委員さんがおっしゃっ

た通りで、朝と昼と夜のターゲットは違うだろうというところと、それから平日と土日も違うだろうと感じます。そのあたりでいうと、朝から晩まで、平日から土日まで全部使う人というのはおそらくいないと思うんですよね。夜となってきましたと高校の授業が終わって、部活が終わってこの施設に集まってくるイメージがわきますし、朝は地域の方々がヨガをやられたり少し運動をしたり、幼稚園に子どもを預けたお母さんが仕事をするのにスペースが使えるのかなと思ったり。昼は観光客の方が平日はビジネス利用できるし、土日は観光もできる。そういうことをイメージしていきながら、メインターゲットが変わっていく場所だとアピールをしていく。こういったことをもう少し議論を深めてもいいのかなと思いました。

加えて、古墳という一つのキーワードがありました。おそらく本気でこのキーワードで勝負しようとなると、奈良県は数が圧倒的ですから勝てないでしょうし、大きさを言いますと堺市には勝てないですし、さらに近隣で言いますと与謝野町は古墳公園がありますから、そことは違うアレンジが必要です。そこで言うとは先ほど出てきた文化や歴史だと思いますので、たとえば観光パンフレットを見ても古墳が出てくるような、そういったブランディングをやっているかないと建物の形だけを古墳にしても、なぜここに古墳の形なのかと疑問に思われるのはもったいないですよ。この町の古墳には価値があるんですよ、と町をあげてPRしていただくことが大事であるという的確なご指摘でした。ぜひとも記録にとどめておきたいと思っています。

委員 : 一年以上あみラボの方で意見をだしてきまして、この提言書に今至っているのも、あとはプラス要素として、あみラボに関わっていない方の感性や想いを肉付けしていただいたら、よりいいものになるなと思いますので、私としての意見は特にありません。

委員長 : 鬼に金棒のような委員会になればいいなと思っています。
次の委員さんをお願いします。

委員 : 失礼します。いろんな良い意見がでるなと感心しております。まず最初に委員長さんが言われました、キーワードにチャレンジを増やしてほしいということに加えて、運営というキーワードも非常に大事なものであるのかなと思いますし、しっかりと考えていかなければいけないので、キーワードの一つとして付け加えていただきたいと思っています。それと現状認識というところで、この提言書を作る時の少し古い調査内容ですが、京丹後市のまちづくりに関するアンケートということで、中学三年生にアンケート調査を取ったんです。その中で網野町の結果を簡単に話させていただきますので、共

有していただけたらなと思います。網野町の中学三年生147名に、あなたは京丹後市が好きですかと聞きましたら、好きが31%、まあまあ好きが63%。二番目に、あなたは社会人になっても京丹後市に住み続けたいと思いますか、とお聞きしましたら、住み続けたいが7%、どちらかというに住み続けたいが29%、どちらかというに住み続けたくないが48%、住み続けたくないが16%でした。10人中6人以上がアンケートで住み続けたくないと答えているということで、こういった調査からしても、やはり都会に出たいや仕事が無いなど色々な理由があるでしょうけれども、こういった現状を、小さいときからこの施設で、子育てでみんな一緒になって、繋がりを深めていければ、少しでもUターンしてくれる人がいるのかなと思います。小さい時からの繋がりや関わり合いを育てていけば、将来に向けていい結果になるのではないかということで、構想の中にもあげさせていただきました。それからもう一つはですね、今京丹後市では、新しい地域コミュニティを作っていこうということで、それぞれ各地区で検討をしておられると思いますが、このスペースあみラボというのは、研究所という命題がありますので、この場所を使って、今後新しい地域コミュニティの課題について、各区長や地区の方々が集まっていたいて、新しいコミュニティに対する課題研究できる場であればいいかなと思っています。先日網野町の区長会とお話をさせていただいたところ、事務所のような拠点があってもいいのではないかという意見もあり、また、網野町には中央公民館的な施設はないので、そういった機能を持たせた新しい地域コミュニティの課題解決の場所の一つであってはどうかと。これは提言書の中では、あまり盛り込まれていない言葉ですが、そういった意見があったということの一つ委員の皆様の中に置いていただいて、ご検討いただけたらと思います。それからフリースペースも多く設けております。多機能で使っていただけるスペースになるかと思えますので、施設が出来る前から、文化団体や体育団体、それから子育て世代の方々がどのように使っていくかという案が出来ておられれば、真剣に検討していくのが、今後進みやすくなるのかなと思います。そして過日、私は兵庫県の植村直己冒険館に行ってきたんですが、円形の子どもの遊び場があり、素晴らしい施設でした。安全管理の徹底したボルダリングがあり、ネットが張ってあり、その上を子ども達駆けまわっているんですよ。それから一番下の床には、木で作ったおもちゃがたくさん置いてありました。島津連合区の方でも、木で作ったボウリングだとか、木材を使って遊んでもらう取り組みを行われているので、そういった地域のいい活動をこち

らの会議にも教えていただいて、雨が降っても小さい子ども達が遊べる場が出来たら素晴らしいかなと思っておりました。

委員長 : ありがとうございます。一つ質問ですが、中学生のアンケートというのは、協議会でされたものですか。それとも市でされたものですか。

委員 : 市の方でされたもので、平成30年の3月に提言書作成の際にされたもので、539人が回答されています。少し古いデータになりますが。

委員長 : ありがとうございます。今アンケートをとっても結果はあまり変わらないと思いますので、使える資料だと思います。もしよろしければ、今回の基本構想のところで、市の課題の項目の中のエビデンスが足りないので、根拠をいれていく必要があると思うんですよ。今の委員さんからご意見というのは、まさしく繋がり希薄化だとか、若者の離町の進行といったところの根拠となる数字でありますので、そのあたりを入れていくと説得力のある資料になってくるであろうと思います。それと先ほど資料1でご意見は特に無かったかなと思いきや、運営というキーワードを入れてはどうかという意見がありました。誰が運営をするんだと。峰山のrootsに関しましても、町の人事企画室が運営をされています。3年という期限はありますが、チャレンジできる人を外部から雇用してくという一つの運営の在り方でありまして、今回のあみラボさんはどちらかということ、地元の方が中心となって議論されましたので、地元の方で運営団体が持ち上がるかどうかということも、今後の議論の一つの柱となるだろうと思います。それも含めて運営は、重要なコンセプトではなからうかと思えます。それから使い方の面で、どこかのスペースを地域の中央公民館的にとということではないと思うのですが、地域それぞれが拠点を持っている中で、地域ごとに集まって議論できる場づくりですよね。こういったものが、この施設でいったらどこなのか、交流スペースなのか、フリースペースなのか分かりませんが、そういったものがあつたらいいよね、というのはおっしゃる通りだなと思いました。そして最後におっしゃった植村直己冒険館のほうも、リノベーションされて非常に良い噂を聞いております。先ほどおっしゃった、古墳という外見の目玉は相当なインパクトがあると思います。今委員さんがおっしゃったのは中身のインパクトの話で、子ども達が思わず来たくくなるような仕掛けですよ。なので、ここに子ども用スペースがあつて、よくあるようなおもちゃがあつて、絵本が並んでいるだけでは、おそらく差別化はできなくて、ここにしかないもの。それは先ほどおっしゃったような、ボルダリングなんて話もありましたけれども、そういったもの

はもしかすると、他にはない、子ども達が訴求されるような遊具があるだけで、近隣からも人が来られると思います。そういったものがもしかすると、コロナ禍の中でできれば良いのではないかというご意見だったのかなと思います。ありがとうございます。では、次の委員さんのほうからご意見あればお願いいたします。

委員 : 失礼します。自分はこの春から区長連絡協議会の副会長になって、その立場から今回の参加です。あみラボさんがあることは以前から知っていましたけれども、中身まではまったく知りませんでしたし、話を色々と聞かせてもらいまして、こういった話はやはり、私は島津の連合区長なんですけれども、他の島津の各区長さんたちはこの話を知らないと思うんですよ。先ほどあった新しい地域コミュニティのづくりの話でも、おそらく市としては進んでいても、区にはなかなか認知されていないと思うので、今回の会議のPRの仕方というか、こういった会議をもって話が進められていることをもっとPRが必要かなと思います。

委員長 : ありがとうございます。本当にこれほどの町でもあるお話で、行政としては一生懸命PRをしているつもりでも、実際はなかなか伝わっていなかったり、新聞にも載っていましたが、自治会を抜けられた方には、選挙公報が回ってこないなんてことも起きていますので、やはり広報はやりすぎでも良いと思いますので、基本構想についてはあみラボさんの方でしっかりと固めていただいていますので、根幹は揺るがないんですけれども、先ほど文化のお話があったり、高校生のお話があったり、子どもの遊具のお話もありました。このようなご意見があったら、地域の方から寄せてもらえるような目安箱ではないですけれども、そういったことを区長さんを通して、地域に投げかけておくということも大事かもしれません。なにかアイデアがあればぜひともお寄せくださいと。こういったものも会議の広報にもなりますので、ぜひ丁寧にやることが大事かなと思いますので、委員さんのこのご意見は事務局の方でもご検討いただければと思います。では副会長よろしくお願いたします。

副委員長 : 区長という立場で、こういった施設を考えるんですが、先ほど出たように運営という面は、やはり上に立つものとしてはものすごく考えてしまいます。費用的なことも考えてしまいますので、こういったあたりをもう少し議論の中に入れてほしいのと、それから各スペースがいろんな形で利用されてくるんですけども、私が今一番気になっているのが、今は週に何回かやっておられますけども、放課後児童クラブのような子ども達が集まる場所があって、この施設の中でも子ども達が自由に集まれて、スポーツや遊びを通して教育的

なことが出来る場所、そう考えると、常時この施設に人間がいないと、子ども達を見ることができないということもあって。この施設の中にそういう施設があればいいのかなと思いましたが、当然その中には運営する人たちが常時いるというのが基本的な部分になってきますので、その役目が誰になるのかということも考えていただければありがたいなと思いました。

委員長 : どうもありがとうございました。一つは運営面。ただこの論点は次回になるとは思いますが、たとえば京丹後市さんの直営ということもありすし、地域おこし協力隊の方にもお願いすることもありますし、指定管理者といったいろんなやり方があります。それぞれ一長一短ありますので、その中で持続可能な運営とはどういうことなのかということ、今後議論を深めてくるところはおっしゃるとおりだなと思いました。

そしてもう一つは、子ども達の学習支援のような場づくりですね。それはコフーンの資料の中で学習サポートとありますけども、交流スペースという名前だと、少し色がでないので、名称を変えるとか。例えば交流学習支援スペースですとか。あみラボさんの中でも議論いただいたこともあると思いますので、こんな部分を少し押し出していけばどうかというご提言をいただきました。どうもありがとうございました。では最後に副委員長よろしくお願ひします。

副委員長 : ご提言いただいている上に、本当にたくさんの意見をいただいて、よりよくしていくという形で、今日のご審議いただいております。私は女性連絡協議会からの代表として、女性の目線から見させていただいて、資料2の中の市の課題として、未婚率が増加していると示されています。私も京丹後市の社会福祉協議会の婚活のお世話隊なんかもしてまして、そこで未婚の男性、女性が高齢化してきていると。よって人口も減ってきているというようなことが、既に今起きています。婚活イベントなんかも団体さんが個々で細々としておられる。でもやはり未婚の男女の高齢化はどんどん進んできている中で、この交流センターの中でも、男女が気軽に集えるような、そこにくれば会話の場があったりだとか、イベントができたりだとか。多目的な場が提言されているんですけども、このような案もこれから入れていって、そして我々がサポートをしてあげて、より活動がしやすいような雰囲気づくりをしていかなければいけないのではないかと思います。確かに子ども達や子育て世代や高齢者が集う場所は、この提言の中にたくさん入っていますが、次世代の人達の集える場所の提供も必要ではないかなと思います。それから、網野町には歴史のある前方後円墳があって、それをいままで活かされていなかったと。それをこの機会に形もあるけれども中身も

あるよというようなPRの仕方も大切ではないかと思えます。この京丹後市にはたくさんの古墳があるんですね、久美浜町にしっかり丹後町にしっかりたくさんあるので、京丹後市にあるそのような文化施設を活用してツアーを組むだとか、京丹後市の文化に触れてもらえるような形もこれから考えていったら良いのではと思いました。やはりここは網野町の中でもみんなが集える良い場所なんですよ。この良い場所に誰もが気軽に足を運んでもらえるような、居心地の良い場所をこれから作っていかねばいけませんし、私たちはそのためにこうして会議を開いていると思っています。今日は本当にありがとうございます。

委員長 : どうもありがとうございました。出会いの機会が少ない。ここはやはり日本の場合、結婚と出産がくっついて考える国でありますので、そうやってきますと、出会いの機会をいかに作るか、人と人が出会う機会、いるんだけど繋がらないということもありますので、最近ですと婚活居酒屋なんかのお一人様同士でお店に入って、定員さんがお節介をしてテーブルを決めるような居酒屋があったりします。自然発生的なものが一番いいかもしれませんが、そういったお節介が少しあることで、会話が弾むような仕掛けが、この施設で起きたら、本当に素敵だなと思いました。あとは古墳のPRということで、参考になるのかなと思ったのが、与謝野町では一昨年ロゲイニングといった手法を使っているんですね。どんなことをしたかということ、スマホを使ってインスタグラムでどれだけ美しい写真を撮ったかで勝敗を決めるポイントラリーのようなものです。そういった中で内部の人から外部の人、地域の子供たちからプロの方まで挑戦してもらって、イベントなんかが出来てくると、面白い古墳のPRになるのではないかなと思いました。コロナが明けたらそのようなリアルな交流してみてもおもしろいのではないかなと思いました。

ありがとうございました。皆様からたくさんのアイデアが出てうれしいなと思います。それでは一旦休憩を入れたいと思います。

(休憩)

委員長 : それでは皆様、議題に戻らせていただきます。後半戦に入ってまいりたいと思います。それではここからは、さらに細かく議論をしていくパートになってまいります。資料3の①、②を中心にまず事務局のほうからあみラボさんからいただきましたアイデアをベースに交流広場と交流施設の二つにつきまして、議論の前提となるポイントをお話していただきます。その後二つのグループに分かれて議論を深めていただいて、最後に全体で統一するといった感じで進めて

まいりたいと思います。それでは事務局の方から交流広場と交流施設についてのご紹介よろしく願いいたします。

事務局：（資料3に基づき説明）

委員：事務局すいません。質問です。参考（周辺図1）の資料で旧網野幼稚園の場所が活用範囲から抜けているのではと思います。これはなにか意図があるのでしょうか。

事務局：申し訳ありません。ぬけておりました。

委員長：では参考（周辺図1）の資料につきまして、委員さんのほうからいわれました通り、旧網野幼稚園が抜けておりますので、次回の資料から修正をさせていただきます。それでは皆様、約50分程度時間を取りたいと思いますので、窓側の席に交流広場のグループに集まっていたいただき、廊下側の席に交流施設のグループに集まっていたいただき、その中で進行していただきたいと思います。私は進行せずに、両グループを見て回りたくと思いますのでよろしく願いいたします。

（グループワーク）

委員長：それでは皆様、議論が続いているところ恐縮でございますけれども、そろそろ閉めたいと思います。今日は全体の発表をするということよりも、今見ていただきましたので、それぞれのグループがどのような議論をされたのかを、それぞれの委員の皆様がご理解いただけたのかなと思います。あとはこれを事務局のほうでまとめていただきますので、その素案をもとに次の議論をしていただくということで、進めてまいりたいと思います。それでは閉会の挨拶を梅田副委員長からよろしく願いいたします。

副委員長：お疲れ様でした。本当に今日は有意義なグループワークで、ご提言いただいていたものにさらに皆様にご意見をいただいて、これが私たちが愛する施設になればなと思いながら意見を出させていただきました。市民に愛されるコフーンであってほしいなと思います。そしてこの施設は前方後円墳を形で示しているということが、アピールをしていくのにとってもいいなと思うのと、展望台で前方後円墳を見ることができるのが素晴らしいなと思います。小学生が学校の学習で来ていただいて、展望台から古墳を見ながら歴史を学んでいただけるような場にもなっていたら素晴らしいなと思いました。これが実現して、私の愛する郷土の施設になることを願っております。今日は本当にお疲れ様でした。

事務局：はい、ありがとうございました。皆様、熱心に議論をしていただきありがとうございました。次回の検討会議の日程につきましては次第のほうにも書かせていただいております通り、12月27日（月）午後1時30分からお世話になりたいと思います。第4回につきまして

も、次第の通り1月24（月）午後1時30分から予定でさせていただきますので、あらかじめ日程の確保をいただきすようお願いをいたします。そうしましたら以上をもちまして第2回検討会議を終了させていただきます。ありがとうございました。